

日本海スルメイカ漁場調査

担当者 漁業課長 田名部 政 春
技 師 沢 田 兼 蔵
" 十 三 邦 昭

I 目 的

本県日本海沿岸におけるスルメイカ1本釣漁業の健全な発展をはかるため漁海況を調査し当業船の指導に当ると共にスルメイカの生態及び標識放流による洄游移動状況等の調査を行なう。

II 調査の方法

1. 試験船 瑞鳴丸 40.81トン HD160PS
2. 乗組員 船長以下 10名
3. 期 間 昭和41年11月13日～同年11月30日
4. 海 域 青森県日本海近海
5. 漁 具 手動式 イカ釣機 7台

III 調査経過

11月13日より日本海スルメイカ漁場調査を開始したが以後荒天の日が多く11月30日までの間に僅か2回の調査に終わった。

IV 調査結果

新造船瑞鳴丸による日本海スルメイカ調査は11月13日の権現崎W/S 12哩（水温0m/17.2°水深184m）海区と11月28日権現崎S W 15哩（水温0m/15.6°，水深390m）海区の調査と2回調査を行なったが何れも20尾前後の漁獲に過ぎなかった。

本県日本海沿岸の秋イカ1本釣漁業は総じて悪天候に災され例年の事乍ら十分な成果が得られていない。

V 考 察

試験船による本年度日本海秋イカ1本釣漁業試験は限られた短期間のため僅か2回の計の調査に終わったが本年の日本海における秋イカの漁況は結論として39年と同水準の凶漁に終わった。

本年度日本海夏イカ漁況は初漁が例年より20日程早く漁況も近年にない好漁を示し7月中旬頃まで活況を呈し8月末迄の総水揚量は5,115トンで好漁であった前後の約2.2倍となっている。

しかし秋イカは悪天候のため漁獲努力が伴わず好漁だった夏イカと好対照の凶漁に終わった訳である。